

# 経済指標レポート 第214号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

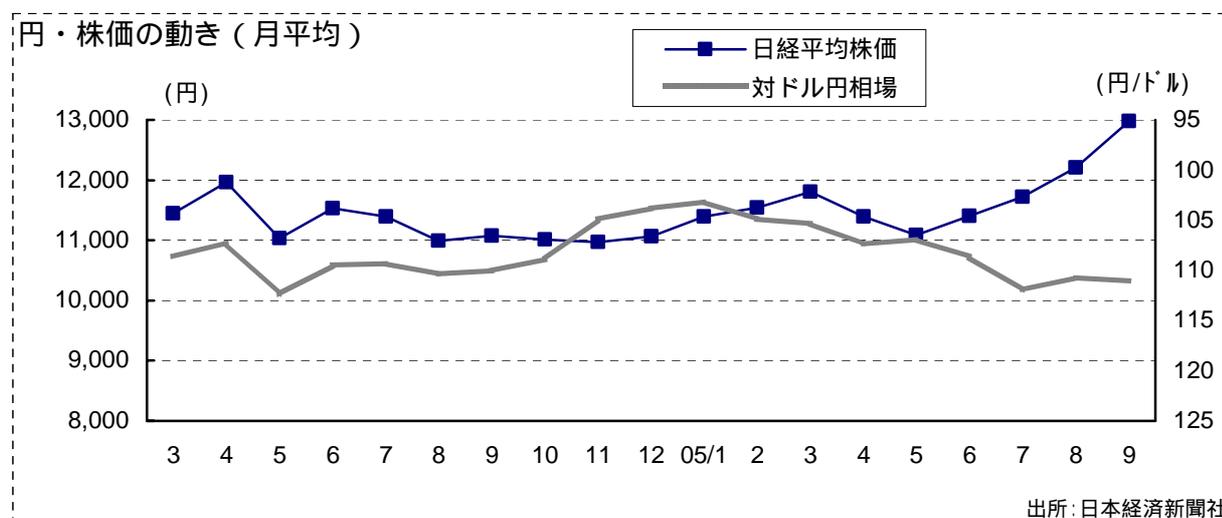
有効求人倍率の傾向(4頁参照)が、今年初めから堅調に右肩上がりの変化を見せている。厚生労働省・文部科学省の共同調査によると、来春卒業予定の大学生の就職内定率は、10月1日現在、65.8%で、昨年同期を4.5ポイント上回り、昨年に引き続き回復傾向にあることが報告されている。高校生の内定率も9月末現在、昨年同期比5.1ポイント上昇の44.0%で、求人倍率は7年ぶり1倍を超える1.20倍となっている。団塊世代の退職による「2007年問題」の影響もあるが、この堅調な伸びは、昨今の景気回復基調を示すひとつのデータとして有効だ。

ただし、正規の雇用以外の進路選択(大学院進学や非正規労働者、ニートなど)をする者が増加し、就職希望率が低下していることも留意しておかなければならない。特に、フリーターやニートの増加は社会的な問題となっている。フリーターの定義は難しく、厚生労働省の発表と内閣府の発表では差があるが、その人数は約200万人から400万人規模と言われている。

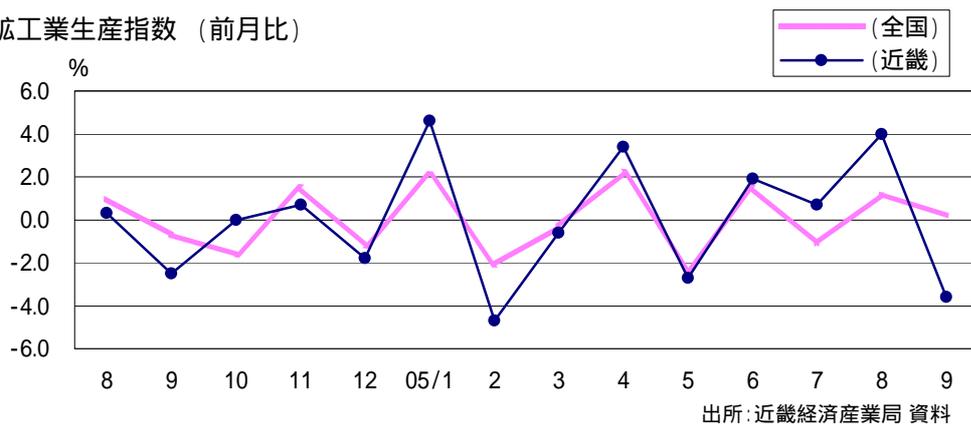
フリーターの増加は、経済成長の制約や社会保障制度への影響が生じるなどの問題点がある。一方で、低コストの労働力として、フリーターをビジネス上の重要な戦力であると位置づけている企業も多いのが現状である。さらに、ひとつの会社にとどまらず、常に多くの職業分野を経験したい、ひとつの企業の考え方に染まりたくないなど、多様な価値観を持ち、自らフリーターの道を選ぶ若者もいる。

就職内定率の上昇がそのままフリーターの低下につながらない背景には、いくつかの要因がある。就労に対する若年層の意識の変化に敏感に対応していくことも今後の課題である。

## < 各指標の動き >

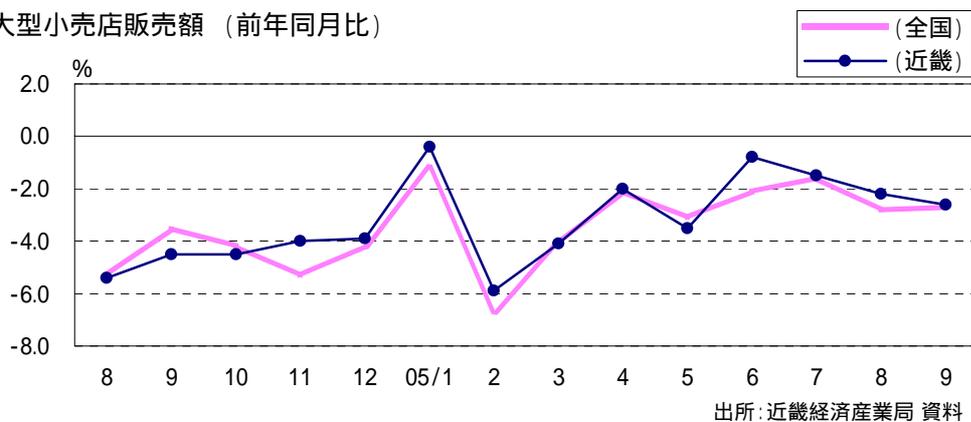


鉱工業生産指数（前月比）



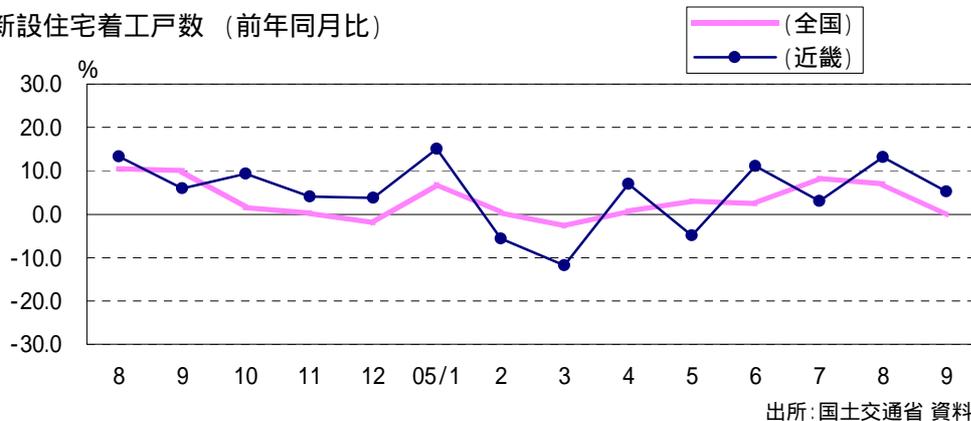
近畿は前月比 3.6% 減と 4 ヶ月ぶりに低下。一般機械工業、電気機械工業、化学工業（医薬品除く）などが低下に寄与。生産は持ち直している。

大型小売店販売額（前年同月比）



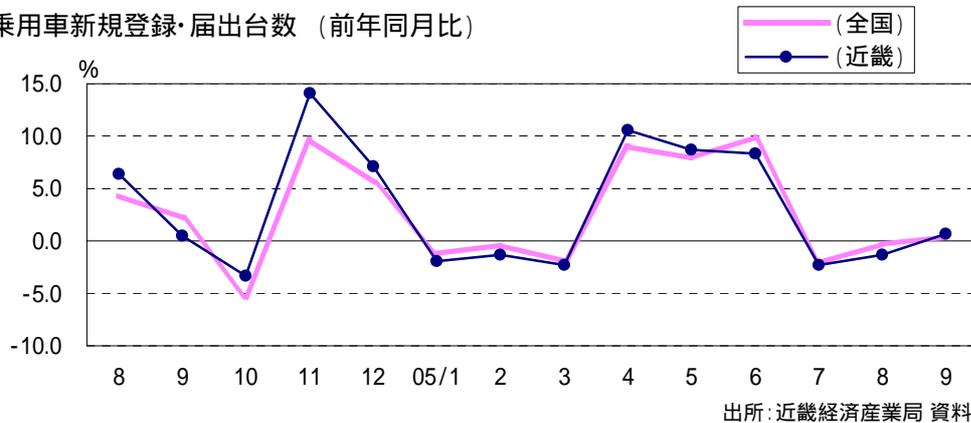
近畿は既存店ベースで前年同月比 2.6% 減、19 ヶ月連続のマイナス。スーパーが同 5.1% 減で 23 ヶ月連続のマイナスとなっているが、百貨店は同 0.8% 増と 2 ヶ月連続のプラスとなった。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



近畿は前年同月比 5.2% 増と 4 ヶ月連続で前年を上回った。持家が 8 ヶ月連続で前年を下回ったものの、分譲住宅が 2 ヶ月連続、貸家が 6 ヶ月連続でそれぞれ前年を上回った。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）

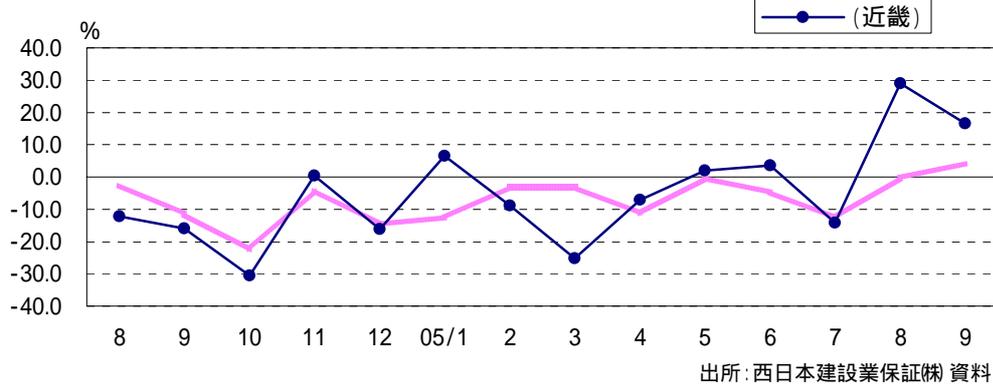


近畿は前年同月比 0.7% 増と 3 ヶ月ぶりに前年を上回った。普通車（同 9.6% 減）が 3 ヶ月連続で前年を下回ったものの、小型車（同 6.0% 増）、軽四車（同 3.9% 増）がそれぞれ 6 ヶ月連続で前年を上回った。

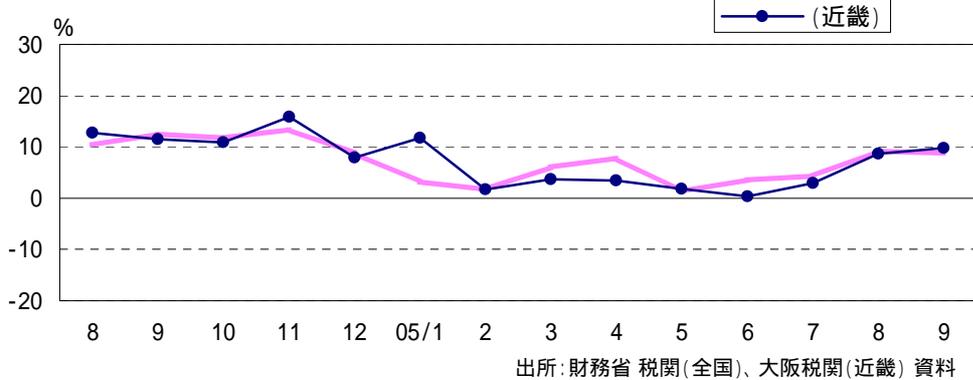
機械受注：民需除く船舶、電力(前月比)



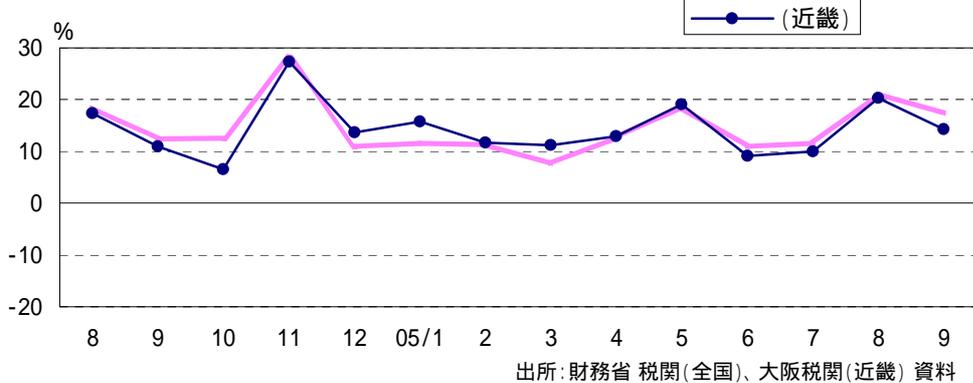
公共工事請負金額 (前年同月比)



輸出 (円ベース、前年同月比)



輸入 (円ベース、前年同月比)



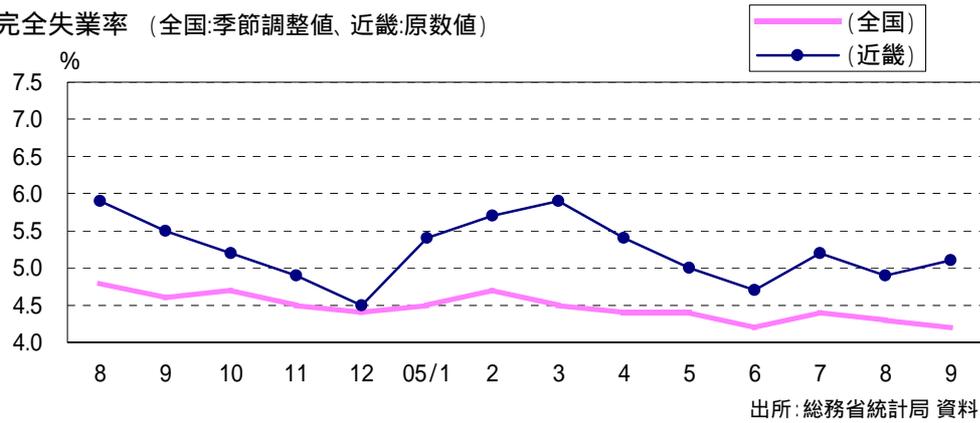
機械受注は前月比10.0%減となった。業種別の受注は製造業が同6.4%減、非製造業(船舶・電力を除く)は同12.1%減となった。

近畿は前年同月比16.5%増。国・市町村以外の公共的団体による住宅関連、公共事業団による関西空港関連の大型工事、府県による兵庫県下の病院や漁港道路の整備工事が増加に寄与。

近畿は前年比9.8%増。42ヶ月連続のプラスとなり、7ヶ月連続の1兆円超。アジア向けの輸出が過去最高。特に中国は輸出入ともに過去最高を記録。

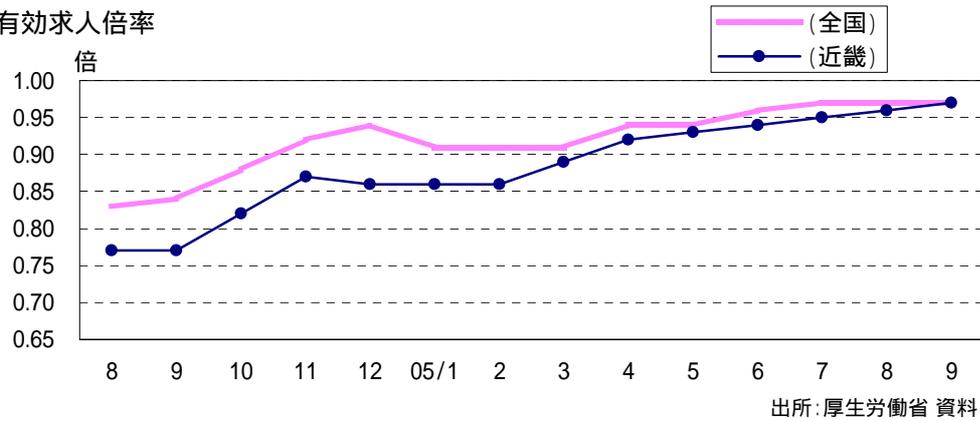
近畿は前年比14.3%増、20ヶ月連続のプラスとなった。原租油、医薬品、非鉄金属鉱、肉類・同調製品が増加に寄与。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



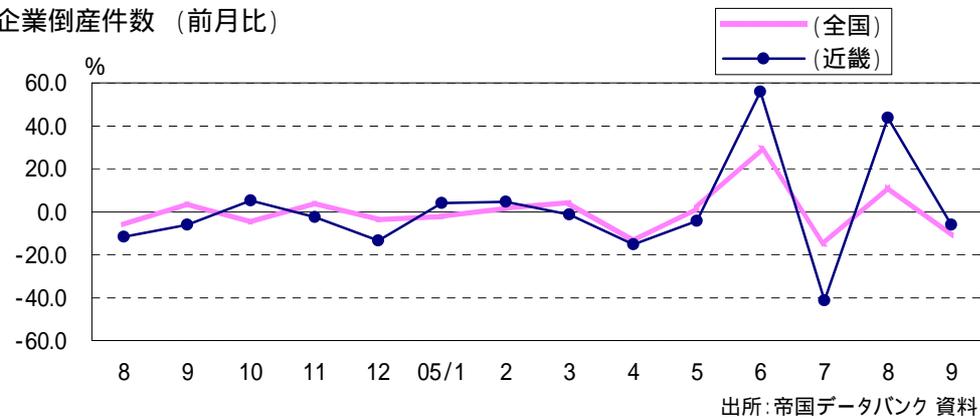
近畿は5.1%で、前年同月に比べ、14ヶ月連続で前年を下回っている。引き続き厳しさが見られるものの、緩やかに改善している。

有効求人倍率



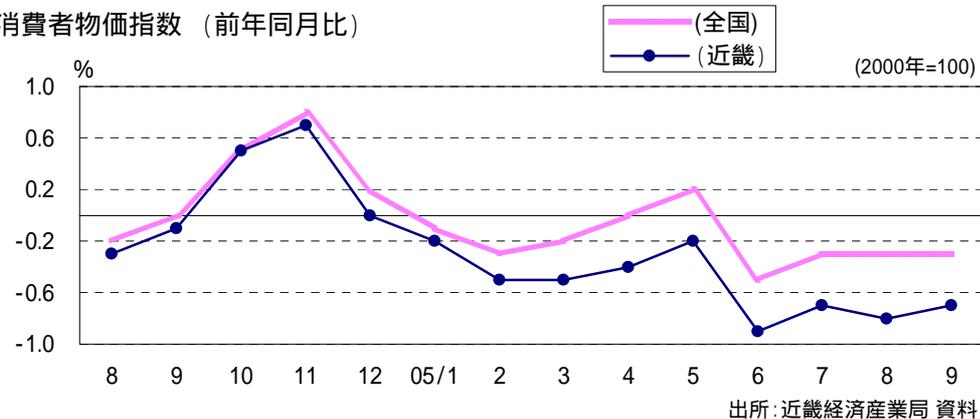
近畿は前月比 0.01ポイント上昇の 0.97倍で7ヶ月連続の上昇。大阪府では建設業、運輸業、飲食店・宿泊業、卸売・小売業等の新規求人数が増加した。

企業倒産件数 (前月比)



近畿は170件で前月比6.1%減。業種別では、最も構成比の高い建設では、同22.0%減、前年同月比では77.3%増と大幅に増加している。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は97.2で前年同月比0.7%減。前月比では0.5%と4ヶ月ぶりの上昇となっている。